

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 4 号を発表したので送付します。

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 4 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)
- 3 発生地域 宮古群島
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 宮古島及び伊良部島における 12 月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は 8.0% (前年 6.3%、平年 5.3%) と平年並であった (図 1)。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち 90.1% が本種であった。12 月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は 20.8 頭 (前年 23.9 頭、平年 14.2 頭) と平年よりやや多かった (図 2)。
- (2) 伊良部島における 12 月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は 27.3% (前年 1.1%、平年 3.9%) と例年より高かった (図 3)。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は全て本種であった。11 月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は 20.9 頭 (前年 0.2 頭、平年 3.7 頭) と平年より多かった (図 4)。

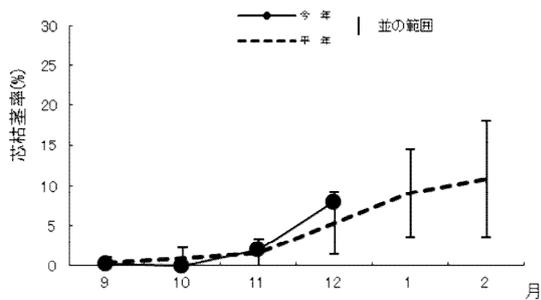


図 1 宮古島・伊良部島におけるメイチュウ類(芯枯茎)の発生推移

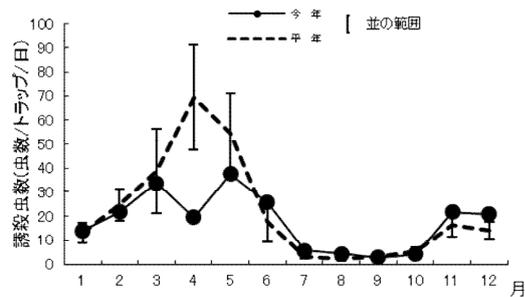


図 2 宮古島におけるカンシャシクイハマキ(トラップ)の発生推移

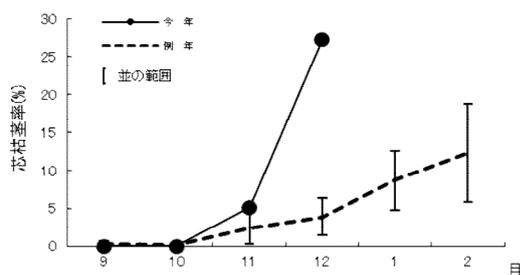


図 3 伊良部島におけるメイチュウ類(芯枯茎)の発生推移

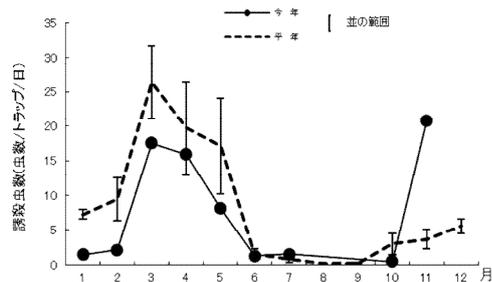


図 4 伊良部島におけるカンシャシクイハマキ(トラップ)の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 本県では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- (2) 卵は葉の付け根やや茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- (3) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
- (4) 被害はほ場に散在的に発生する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、培土時に食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図5 伊良部島の被害ほ場



図6 芯枯茎



図7 カンシャシンクイハマキ老齢幼虫